

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990300085		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	グループホーム フレンド倶楽部郡山		
所在地	奈良県大和郡山市外川町72-1		
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2990300085-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和4年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームならではの家庭的な雰囲気の中、日々安心・安全に、生き活きと過ごして頂ける様、生活のお手伝いを行っています。近隣には、大型ショッピングモールがあり、買い物や外食レクリエーション、中学校の福祉体験学習等を通じて社会交流を行っています。ホーム目の前に法人内の医療や福祉施設もあり、連携を取りご入居者様の健康管理を行っています。コロナ感染の為今現在は行動を制限されていますが、施設内でのイベント等を行い笑顔に過ごして頂ける様努めています。ご入居者様・ご家族様にはご迷惑をおかけしている状況ですが、リモートでの面会にて家族様との関りを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは商業地に立地し、周囲は母体法人の施設やクリニックモールに囲まれている。管理者は職員主体の職場作りを進めており、自分たちで考え行動できる人材づくりに努力している。職員が働きながら技術や知識を身につけていくOJTの体制をとり、研修は動画配信され全職員が聴講した後で話し合うなど丁寧に指導しており、外国籍の実習生も育てている。「安心できる生活空間をつくる」というホーム独自の年度目標を立て、職員間で話し合い実践につなげている。利用者は職員手作りの美味しい食事を食べ、手厚い医療体制に守られ、安心して暮らしており、コロナ禍でも活気のあるホームを目指して職員が奮闘している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は以下の通り、玄関に掲示。 ①利用者の心と身体に寄り添い、安心できる生活をお手伝います。 ②利用者の尊厳を守り、自立を支援します。 ③地域に開かれたホームを目指します。	法人の理念を重要事項説明書に記載するとともに、玄関に掲示している。職員は、事業所独自のeラーニングによる自学自習にて法人理念を確認している。また、「安心できる生活空間をつくる」という事業所独自の年度目標を立て取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域中学校の福祉体験を受け入れ、交流会やお祭り等で地域の方々と交流を行っている。又、近隣の認知症カフェ等を利用し地域交流に繋げている。今現在コロナ感染の為中止。	自治会には加入していない。事業所は商業地にあり周囲は母体法人の施設やクリニックモールに囲まれており、日常的な地域交流は難しい。コロナ禍以前は、1階にある小規模多機能ホームや認知症カフェで地域の方と交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを利用し、地域の方々との交流や、運営推進会議を通じて、ホーム内でのイベント等を報告し、認知症の人の理解を深めて頂けるよう努めている。家族様面会時等、家族様との会話を傾聴出来る様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、小規模多機能事業所と同時開催し、市役所福祉課職員様・ご家族様・ご利用者様参加のもと、スライドショーを用いて近況報告を行っている。身体拘束や高齢者虐待についての研修を行いサービス向上に努めている。	現在コロナ禍のため、運営推進会議は書面報告のみとなっており、外部からの意見の集約はなされていない。コロナ禍前は家族と市の担当課職員が地域包括支援センター職員の参加のもと実施されていたが、地域の方の参加はない。	事業所が商業地に立地するため、日常的な地域交流が少ない。地域包括支援センターや市の担当課の協力も得ながら、自治会役員や民生委員などに運営推進会議への参加を得られるような働きかけが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を持参しコミュニケーションを計っている。またコロナ感染や災害時の情報共有をして頂き支援して頂いている。	運営推進会議録を市の担当課に持参し、情報交換を行っている。市主催の感染予防対策の研修にリモートで参加している。生活保護の利用者を多く受け入れ、市の担当課と密に連絡を取りながら支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社発信の職員研修で各自学習し、事例検討等を用いて身体拘束のないケアを掲げ取り組んでいる。又、医療と連携を取りご利用者様の状態を共有している。	今年度は、「リスクマネジメント」「身体拘束」の研修を実施し、毎月のケア会議で話し合っている。入居時、身体拘束のないケアを行うことによる転倒などのリスクを説明し、家族に同意書を頂いている。事業所では、夜間居室にて転倒予防にセンサーを使っているが、特に身体拘束に関わる事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社発信の職員研修で各自学習し、事例検討等を用いて学んでいる。自己評価チェックや定期的なスタッフ面談を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	チェックリストを通じて学ぶ事が出来、自己評価で理解を確認する事が出来る。結果としては、なかなか理解としては不十分な所がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書及び利用契約書を文書で示し、十分理解して頂いた上で、疑問点等はその都度確認を行っている。疑問点に関しては、その場で返答出来る部分はお答えし、確認取るべき箇所に関してはお時間を頂き、明朗会計に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、入居者様への日頃の対応や声掛け等による、不安や不満を汲み取りスタッフと共有している。家族様のご意見は真摯に受け止め、最善を尽くせる様務めている。また、家族様の苦情等に関しては、契約時に苦情受付の窓口についての説明を行っている。	現在面会は、玄関にてガラス越しに行ったり、リモートで面会している。その時、家族から要望等を聴いている。電話で家族に連絡することもある。また、家族に「一言通信」として毎月写真と共に利用者の様子を送っており、家族に喜ばれている。	家族は意見や要望を言いにくい立場にあることを理解し、話しやすい場と雰囲気づくりが望まれる。半年に一度でもカンファレンスを行い、家族の率直な意見や要望を引き出し、介護計画に活かすことができればさらに良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より職員の意見に耳を傾け、事業所内で解決しない案件に関しては、上長や本部へ相談・報告し、働きやすい職場作りに努めている。	毎月のケア会議と3か月に1回の個人面談で、職員の意見や思いを聴いている。管理者は職員主体の職場作りを進めており、自分たちで考え行動できる人材づくりをすることで、職員の意欲の向上につなげている。外国籍の実習生の教育にも力を入れている。現在、職員の意見でネットショッピングの利用を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	プリセプター制度を用いて、自己評価・上長評価にて職員1人1人の実績を評価されている。又、管理者に関してはOJT指導員による面談等を通じて、運営や職員に対する疑問を早急に対応行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプター制度を用いて、自己評価・上長評価を行う。理解度が明確化しており、eラーニングによる学習にて知識向上に努める事が出来る。また、グループ内専門職による研修等もあり、参加を心掛けスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部研修や外部研修、月1回の管理者会議等で、他事業所との意見交換、交流を図りサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のアセスメントを行い、ご本人様・家族様の協力を得て、困っている事、不安な事を傾聴する。入居時・入居後、家族様の協力の元、安心・安全に過ごして頂ける様、アセスメントを行い、ケアプランの作成・実行に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する経緯や、困っている事不安な事を伺い、その中で支援出来る部分、出来ない部分を明確化し、出来ない部分に関しては専門分野へ繋げられる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時・アセスメントを行う際、困っている事・不安な事等を伺い、状況によっては他サービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の人権を尊重し、適切な距離で対応出来る様努めている。プライバシー保護や、言葉使い等にも気を付けている。役割分担としてお手伝いを行って頂く事もある。(洗濯たみみ・お盆拭き等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様と家族様との関係を大切にし、コロナ化で対面での面会はお断りしているが、リモートでの面会を行っている。体調管理や、日々のご様子等は電話や面会等でやり時を行い、活動内容については1カ月に1度お手紙や広報を利用し関係を築ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親戚、ご友人の方のご面会等をいつでも気軽に行える様配慮を行っている。(リモートで対応)ご利用者様1人1人の馴染みの場所や好きな事等をご家族様と共有し、イベント等で感じて頂ける様努めている。	利用開始時の面談で本人・家族から馴染みの人や場所を聞き、アセスメントシートに記載し、それを介護計画書に反映できるよう努力している。現在、利用者は家族とリモートなどで面会しており、暑中見舞いを出される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の言動や表情等から、利用者様同士の相性を感じ取る。相性等を踏まえ、席の配置等を考慮しよりより関係を築いて頂ける様、その都度配慮を行っている。時にはスタッフが間に入り、関係づくりの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたり、ご逝去されたご家族様への心のケアを大切にし、電話対応等で応じている。転居された場合等は、転居先のスタッフと情報交換を行い、新しい生活の場でよりよい関係を築いて頂ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前面談を通じて、居宅での生活環境を尊重し、出来る限り希望に添える様努めている。人付き合い、趣味等は、暮らしの中で取り入れる事が出来る様努めている。思いや意向の把握には家族様の協力、利用者の表情や言動から汲み取る事もある。	利用開始時、自宅を訪問してADL・生活歴・趣味・希望などをお聞きし、3枚のアセスメントシートに記載して思いの把握に役立てている。コロナ禍で利用者のストレスが溜まらないよう、レクリエーションの回数を増やしている。	利用者がどのような社会情勢の中でどう生きてきたか、より詳しい人生の年表を作成し、利用者の思いの把握と日々のケアに活かすことができればさらによいと思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後のご家族様との会話や、ご本人様の一言を大切に、送って来られた人生経験を大切にされた生活を送って頂ける様努めている。記録はアセスメントシートに情報を集約している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言動、日々のバイタルチェックにより心身の状態を観察している。体調変化時には医療と連携を取り、体調の管理に努めている。日々の出来事等は電子カルテに記録し、スタッフ間・医療で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の生活や言動等から、出来る事、支援が必要な事を把握し、ご家族様ご協力の元、より良い生活を送って頂ける様介護計画に落とし込んでいる。日々その人らしく生活して頂ける様、ご本人の想いを大切に実現に向けて目標を立て、介護記録に記録する。	介護計画書の目標に「楽しく生活したい」の項目をあげ、自販機で缶コーヒーを買う習慣のある利用者さんの計画書には「ホーム近くの自販機に行き自分で缶コーヒーを買う」と記載されるなど、生活歴や趣味が反映されている。モニタリングは、個別の電子化した介護記録に書き込み、職員はタブレットで共有している。	介護計画の更新の前後で、家族を含めたカンファレンスの機会を持ち、思いをじっくり聴き介護計画に活かす取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活のご様子や数字で記録を残す事に加え、連絡帳や申し送り等を通じて、日々のご様子や変化に対応できる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能や、訪問看護、医師、栄養士等と連携をとり、ご利用者様1人1人に対して、より良い対応が出来る様、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、外部の地域資源の活用や、外出等は自粛している為交流はない。会社での制限が解除された際には、音楽やアニマルセラピー等の地域資源利用の再開を考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を大切に、希望があれば代理で受診する事もある。ご家族様に受診付き添いをして頂く場合はご本人様の施設での生活状況を医師にお伝え出来る様文書を準備している。その他受診が必要と判断された場合は、隣接する医療モール内で受診・往診可能。	利用者全員、事業所の協力医の訪問診療を月2回受けている。皮膚科・整形外科は隣接の医療モールに歩いて受診している。月1回、歯科衛生士による口腔ケアを受けている。また、毎週火曜日に訪問看護があり、手厚い医療体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、毎週火曜日に訪問看護があり、健康管理や職員への助言を頂いている。又、日常のご様子や気づきを報告し共有する事で、緊急時対応の際、スムーズに行う事が出来る体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院等の際は、施設や病院での生活状況を共有出来る様書面での情報交換を使用している。又、定期的な訪問や、電話にて状態の把握に努め、退院時スムーズに日常生活へ戻れる様に努めている。又、必要であればご家族様同席の医療カンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定しており、重度化・終末期に入る前には往診医・管理者・ご家族様同席の医療カンファレンスを行っている。ケアの方針や緊急時対応等を共有し対応出来る様取り組んでいる。又、必要であればグループ内の他施設との連携も行い、家族様・ご入居者様の意向に沿える様努めている。	利用開始時に事業所の重度化対応指針を説明し、日常的な医療行為はできないことを理解していただき、同意書に署名してもらっている。重度化したときは、関係者が集まり状況説明をするとともに、家族の意向を聴いている。今年は4名の方を看取った。事業所での看取りの経験を重ねることによって、終末期を迎える体制が整ってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成及び、ケア会議・研修にて周知・行動出来る様取り組んでいる。又、重度化、終末期を迎える方の対応を書面に残ししもの時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を策定し、年に2回避難訓練及び、初期消火の消火訓練を行っている。又、災害対策マニュアルを作成しており、慌てず連絡出来るような体制をとっている。非常災害時に備え飲料水・米・缶詰等の備蓄を準備している。	今年5月と11月に防災訓練を実施した。避難誘導に時間がかかることが課題である。事務所に「火災等有事に備えての注意点」を掲示し、綿密な消防計画を立てている。食料や飲料水を3日分備蓄している。また、新型コロナのクラスター対策として、陰圧装置付き居室や防護服の完備などがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを基本として、共同生活での距離感を大切に言葉かけに努めている。言葉選びに関してはスタッフ同士で注意し合い、適切な言葉かけが出来る様努めている。	「接遇について」や「高齢者虐待防止」の研修を実施し、職員は利用者への声かけ方法など確認している。介護計画書にも「排泄介助時は羞恥心に配慮する」と明記し、特に排泄介助時にはドアを必ず閉めるよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動前には必ず自己決定・選択が出来る声掛けを行い、開かれた質問・閉じた質問を使い分ける事が出来る様取り組んでいる。又、声だけでなく仕草や表情での表現も汲み取る事が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご入居者様の生活感を尊重し、寄り添える支援に努めている。共同生活の場として役割を持って頂き、他のご入居者様やスタッフとの関わりも大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者様のご希望や、ご家族様のエピソード等を踏まえお手伝いをさせて頂いている。季節感も大切にし衣替え等の際はご家族様にご協力を頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作り料理を提供し、四季を感じて頂けるような食材を使用している。リクエストを伺い作成する事や、鉄板等を使用しレクリエーションを兼ねて作成する事もある。お盆拭きや机拭き等は自立支援に基づいて、役割を持って頂いている。	法人医療チームの栄養士によるアドバイスのもと、職員が近くのスーパーで買い物し、毎食手作りしてでき立ての料理を提供している。朝食はお粥かパンを選択できる。職員が一人でも利用者と同じ食事をとる検食の取り組みが望まれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、体重管理や排便不良等の身体状態に応じて臨機応変に対応している。栄養士と連携を取り、食事方法や嚥下状態等を踏まえご入居者様に合った形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者様のADLに応じた歯磨きへの誘導や支援を行っている。又、口臭等から口腔内の異常に早期発見出来る様心掛け、異常がある場合は歯科往診にて対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔の把握が出来る様、排泄記録を記録し活用している。ご入居者様のADLによって対応を変え、羞恥心や習慣、衛生管理等のバランスを考慮し対応している。自立支援に基づいた声掛けと誘導を行っている。	1ユニット3か所トイレが設置されている。夜間ポータブルトイレを利用している方もいる。現在、昼間布パンツ使用の方4名、リハビリパンツの方7名、巻きおむつの方5名である。巻きおむつ利用の方も、トイレに座ってできるだけ自然な排泄ができるよう、環境整備や介護技術の習得ができればよいと思われる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録にて排便の状態を共有する事や、1日トータル水分量を記録している。腹圧運動や、牛乳や食物繊維を多く含んだ食材を使用に務めている。又、必要であれば栄養士・訪問看護に相談しアドバイスを頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様のADLに応じて入浴方法を変え安心して入って頂ける様努めている。週2回～3回の目安はあるが、回数や時間帯に制限はなく入浴して頂けるよう努めている。	浴槽は、家庭的なユニットバスで、利用者が週2回入浴ができるよう支援している。季節を感じられるよう菖蒲湯やゆず湯をしたり、入浴剤を使ったりすることがある。湯船に入ることができない方には、シャワー浴と足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活のリズムを大切に、ご本人の意思や心身の状態に配慮し、休息時間は、方法は個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の薬の知識向上と状態観察の為、定期往診にて追加・変更のあった薬については連絡帳にて発信し共有している。日々状態観察を行い、管理者に報告出来る環境を作り、訪問看護・定期往診の際医療との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお盆拭き等による生活レクリエーションや、共同で行う歌のレクリエーションや体操を行っている。季節事の行事の際には楽しい時間を過ごして頂ける様、皆さんに参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナの為自粛しており、屋外での活動はしていない。自粛解除した際には近隣のショッピングモールへ買い物や食事、季節毎に外出を行い四季を感じて頂きたい。玄関先での日光浴や屋内でのイベントを中心として行っている。	コロナ禍で外出は玄関先のみとなり、利用者のストレスを軽減するため、事業所内でのイベントを増やしている。日光浴と気分転換を兼ねて計画的に全ての利用者が外に出ることができるよう支援し、外出中の写真を家族に郵送すれば安心していただけたと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭の所持を必要とされる方はおられないが、外食や外出レクリエーションの際は職員と一緒にやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に了承のもと、操作などは支援を行い通話して頂けるようにしている。ご家族様から手紙が届いた際には、ご本人様に直接お渡ししたり、代読させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではご自宅で過ごして頂いている間隔を持って頂ける様、テレビやソファ、本棚等を置いており、過ごしやすい場所を自由に選択して頂いている。居室やトイレ等のプライベート空間には鍵付きの扉を使用している。壁や天井には不快にならない程度の季節やイベントの飾り付けを行っている。	食堂兼居間は比較的広く、東側に大きな掃き出し窓があり明るい。対面キッチンで調理はIHを使用しており、利用者が手伝いやすい。壁には、季節感が感じられる飾り付けがなされている。現在、運動会シーズンということで、居間の天井には国旗がなびいている。感染症対策として1階と2階に陰圧装置のついた部屋が1室ずつある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置や、家具の配置などを利用し、ご入居者様が安心して過ごして頂ける空間を提供している。新しくご入居された方がおられる場合等はその都度ご様子を観察し、席の配置等を工夫し臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には表札があり、迷わず利用して頂ける様にしている。居室内の飾り付けや置物等はご本人様の生活環境や、入居時にご家族様との面談にて決めている。思い出の写真やお誕生日、イベントの賞状等を飾り付けを行い、1人1人の空間が出来る様努めている。	居室には、ベッドと洗面台が設置されている。使い慣れた布団やまくら、洋服ダンスや机、仏壇などが持ち込まれている。より本人らしい部屋づくりのために、事業所へ持ち込む物品を利用者宅で本人や家族と話し合うことができればさらに良いと思われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーであり、自由に行動して頂く事が出来る。家具等でさりげなく手すりになる様に配置し、安心安全に過ごして頂ける様努めている。トイレや居室等のプライベート空間には迷われない様に看板を設置し、いつでも利用して頂ける様にしている。		